

## 今月のみことば 2017年4月

「イエスは涙を流された。」(ヨハネの福音書 11章35節)

### 「素顔同盟」

友人が国語の授業で『素顔同盟』という短編小説を扱った。近未来、すべての人が笑顔の仮面をつけないと法律によって罰せられる時代が到来した。怒りや悲しみ、喜びなどの表情が、人間関係に良くない影響を与えるから、というのがその趣旨である。



学校では先生も生徒もみな「笑顔」である。一見したところ、社会もそれで大変うまく行っているように思える。衝突や争いは回避されたかのようにであった。

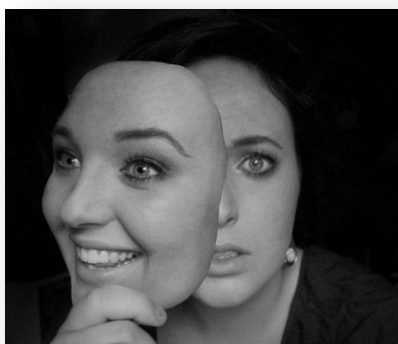
ところが、主人公は、自分の本当の気持ちを表すことができないこの状況に、言い知れない空しさやフラストレーションを感じていた。

そんなある日、市街地の対岸にある自然保護公園に出かけた。すると、小川の向こうに立っていた少女が、驚いたことにゆっくりと仮面を外し、素顔を出したのである。美しい少女であった。しかし重大な法律違反であった。少年はドキドキした。

数週間にわたり、彼女に再び会いたくてその後も何度も出かけたが会うことはできなかった。そのころ、学校でうわさされていることがあった。「素顔同盟」という一団があり、仮面をはずし、社会や警察から逃れて川の上流の対岸の森の中で、素顔で暮らしているという。ある日同じ場所に行ってみると、前を流れる川に、一つの仮面が流れてきた。拾い上げてみると、あの少女のものであることがすぐにわかった。少年は意を決して、「素顔同盟」の人々の住む場所に向かって歩き始めた。もはや迷いはなかった…。

ここでこの物語は終わる。

この授業を聞いた父兄の一人が、友人のそばに来て言ったそうである。「先生、私も笑顔の仮面をかぶって生きてきました。今日の話はまさに私のことです。妻は私の本当の顔を知りません。素顔を見せたら終わりです」と。そこへ母親が来て、「あなた、こんなところで何しているの?」と言って、夫を連れて行ってしまったそうである。



「人はみな主を必要としている」(People Need the Lord)という歌もまた、この「仮面」についてふれている。

「どこに行くのか 知らないままに / 歩き続ける人びとの  
笑顔の下の悲しみは / 主イエスだけが知っている」

若くして死んだラザロが葬られて四日後、イエスはその村に到着された。そして、嘆き悲しむ人々を見て、ご自身も涙を流された。この直後、ご自分でラザロをよみがえらせるのに、涙を流したのである。イエスは私たちの心を完全に理解してくださるばかりでなく、完全に共感してくださる方である。イエス・キリストを知ったとき、初めて私たちは仮面をつけなくてもいい方と出会う。その出会いこそが、生きる力の根源となることを聖書は証してやまない。